

寝屋川市民たすけあいの会会報

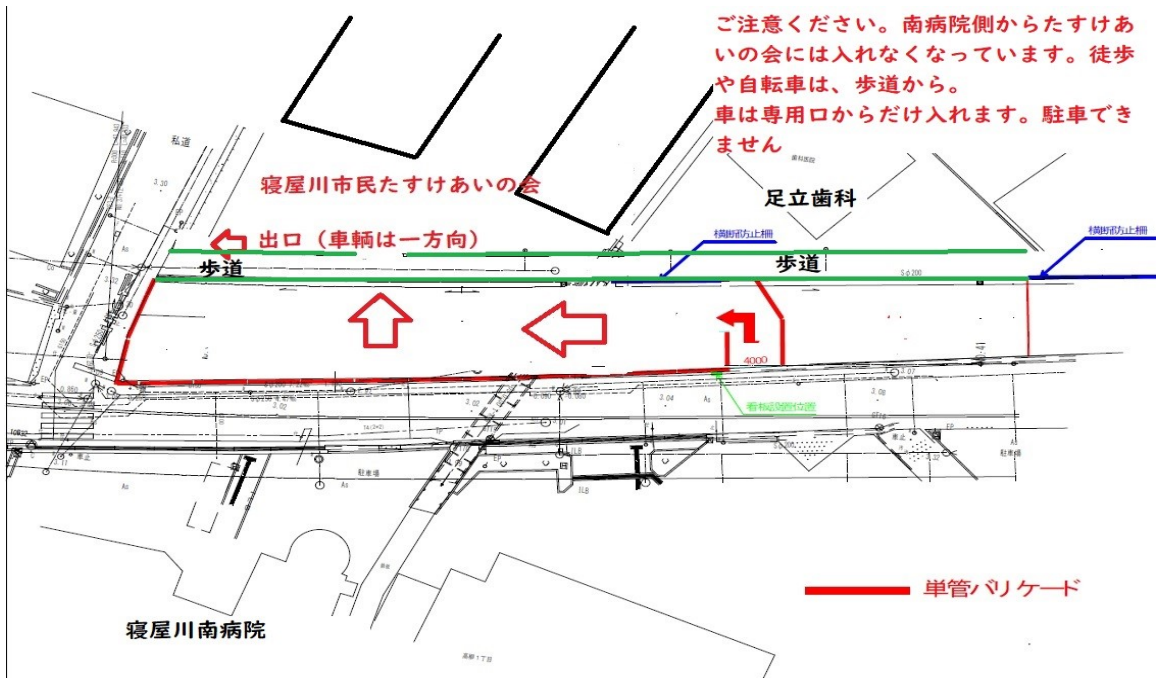
つなぐ

No.275 7, 8月号



道路拡幅工事のため、一時的にたすけあいの会の出入り口が大きく変わっております。

「車」でお越しの際は以下の地図にそって入っていただきますようお願いいたします。工事が再開しております。今後、工事の進捗により、道路および導入路が変わる予定です。業者様役所も、まだ全く予定がわからないということでした。(お盆明けから何かの工事ははじまるようです。来られる方は都度ご確認ください。



【つなぐ275号目次】

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| P2 ぼちぼちにゆ～す | P9 かげひなた(松浦 宏樹) |
| P3 インプロ報告 | P10 インターンシップフェア報告 |
| P4 ゆと・りろ絵巻 | P11 実践の糧(室田 信一) |
| P5 ゆるゆる日記(後藤 雅子) | P12 コミュニティフリッジ |
| P6 ぼけっとの中にはね(NPO法人kidsぼけっと) | P13 宇陀のくらしから(廣瀬 朋) |
| P7 果樹3年目の成長 | P14 会員総会報告 |
| P8 晴ればれアテリア | P15 事務局より |
| | P16 裏表紙 |

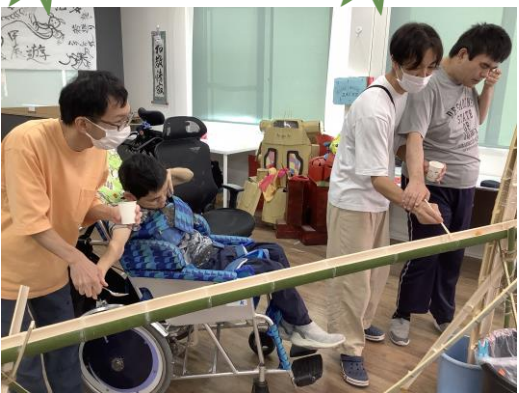
ほちほちにゆるす

竹で流しそうめん

暑い日が続きますが皆さまいかがお過ごしでしょうか。ほちほちはうすでは夏に計画が出ては実現せずに消えていくイベントがありました。それは「流しそうめん」です！竹を使って涼やかに流しそうめんをしたいという意見が毎年ありましたが、竹を取る大変さ、加工する難しさの為、断念せざるを得ませんでした。



しかし、最近イベントで使う為には竹を取りに行く事が増え、メンバーさん、スタッフ共に手慣れてきたことからついに流しそうめんにも挑戦することになりました。竹の伐採と運搬は大変な為、手慣れた少数精鋭のチームに行ってもらい、加工はみんなでしました。竹をナタで割り、節を取ります。そうめんの流れをスムーズに



する為、念入りにやすりがけしました。合計五メートルほどある竹をやすりがけするのは大変でしたが、力を合わせツルツルでなければならぬコースができました。初めてコースを組み合わせたときは余りの迫力に歓声が上がりました。流しそうめんイベントの当日はゆと・りろのメンバーさんも参加され賑やかなものになりました。水を流す量の調節が難しく、そうめんや水が

コースアウトするトラブルがありました。フォークやスプーンを使って上手にそうめんやミニトマトをすくっていただきました。普通にそうめんを食べるよりも断然美味しく、何度もおかわりするメンバーさんがいるほどでした。流しそうめんづくりは大変でしたが、それが吹き飛ばす楽しさでした。今回は流しそうめんプレオープンという事で今シーズン中にもう一度開催したいなど相談中です。



少しは涼しいかなと期

待の六月開催ですが、今年も暑い熱い二日間となりました。初日は十二名、二日目は六名の方が参加をしてくださいました。ファッションターにはもちろん鈴木聡之さん(すうさん)に来ていただきました。

今回は参加者の方へインタビューをし、そこでいただいた感想を掲載したいと思います。

◇ ◆ ◆ ◆

もともと人と話したり初対面の人と顔をあわせるのはすごく苦手で、初対面の人と遊ぶなんて恥ずかしさを超えて嫌くらい。だからインプロに誘われた時は嫌やと思った。今でもなんで初回に参加しようと思ったんかわからない。おやつ出るでって言われたか

らかな笑。

初回は半分近く離脱してたかな。見てるだけやった。見てるのは嫌じゃなかった。参加して一緒にやるのは心臓がきゅってなるし頭の中が真っ白になる。

二回目以降から抵抗がなくなった。知った顔が増えたこともあると思う。今は参加してよかったと思っている。

参加すること自体が苦にならなくて遊びにいく感覚。恥ずかしいがなくなっただけではないけど、自分のペースで参加できるから気楽。

ワークの中でいろんな人としやべると知らんことを知れるし、そのことで盛り上がったたりできる。

強要される感じがないか

インプロすだち @ぼちぼちはうす 2024.6.15sat&16sun

らたのしい。

すうさんが良い感じの空気で輪をつくってくれる。さらっと次に流してくれるから、やりやすくして居心地がよかった。

インプロをしたら初対面の人と休憩時間に話せた。飲み物何がいって聞かれても答えられた。

失敗するの怖い。失敗すると引きずるから。とくにはじめてのことは失敗するって思うからしたくないし、やったことないことはしたくなかった。

でもインプロは失敗してもなんか良い感じの空気にしてももらえるから、失敗しただってという感覚が自分の中に残らない。

ほんまにダメって思ったら

だめって言える、その場から抜けられるから。

無理やったり失敗した時にいるんなかたちでカバーできるからなんとかなるかなって思える。

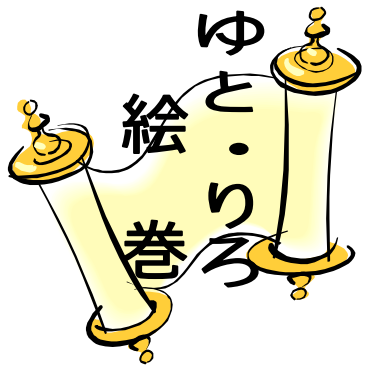
すうさんがいるから、知っている人がいるから、いろんな理由があつてやってみることができる。

輪から離れることもできるから、恐れるまではいかない。気楽に楽しくなれるなって思います。(hō)

◇ ◆ ◆ ◆

たくさんのおもしろい言葉をいただきました。続けることの良さ、積み上がっていくおもしろさを感じのお話でした。

他の方からお声をいただいたので次号もインタビューの内容をお届けします。



「ポックンミョン」

「クック★らん」では韓国でヒットしている辛いインスタント焼きそば「ポックンミョン」を作りました。



具材は白菜、ベーコンです。白菜と辛い粉末が絡まってキムチになることを期待しました。そしてコーン、チーズ、

マヨネーズ、砂糖を混ぜたものをトッピングしました。辛い麺と甘いコーンとベーコンとチーズをからめながら食べると美味しいです。

(MILKY)

「フードロスに貢献☆シ」

六月中旬、「ランチ王」で、東南アジア風屋台飯を作りました。その具材は、空心菜、ドライトマト、パクチー、チキンを炒めた物です。さらにジャスミンライスを盛ったワンプレートランチです。トムヤムクン風スープも添えます。炒め物に使ったトマトは、寄付でいただいたアメリカン



トマト（一パック九百八グラム）です。これを半分に切って風通しの良い所で三日程乾燥させて、ドライトマトの完成です。色もカラフルで、ギュッと凝縮された味が旨味を広げます。

もう一つの主役、空心菜は茎が空洞の野菜です。これもアジア料理にぴったりです。八百屋さんで五束百円でした。

ラッキョ♪これとパクチー、チキンをナンプラーで炒めました。空心菜がフライパンに溢れましたが、シユンと収まりました。日本ではない、アジアの味わいを堪能しました。他にも寄付でいただいたも

ので、チャメ（韓国メロン）も美味しくいただきました。そのまま切って食べるのもとても良かったのですが、金曜日の「あまみ党の会」では、チャメをくりぬいて寄付の飲むヨーグルト・冷凍バナナ・チ

ヤメをミキサーにかけてドリンクを作りました。くりぬいたチャメを器に絵も描いて、楽しかったです。

総じて、「ゆと・りろ」では寄付の食材を活用して、フードロスに貢献しています。と言うよりも普段ではいただけない様々な食材に毎回みんなで驚き、感謝しています。

(yukorin)

☆☆☆☆☆



「ゆと・りろ」blog 更新中

<http://utorino.cocolog-nifty.com/blog/>

*たすけあいの会のホームページからでも見られます。

ゆるゆる日記

「〇〇ものがたり」

その二十九

酷暑が続いています。Sさんから届いた、水遊びを楽しむ母娘のイラストに涼しさを感じ、ほっとします。

今回は、その二十二でお伝えした、四十代前半のゆみこさんのその後の物語です。高校卒業後働いていましたが、二十代初めに脳に腫瘍ができ、手術後ぼんやりする発作がよく起こり、記憶力が落ちました。物音に敏感になり、自分のことを言われているように思い、文句を言うてしまうこともありました。

その頃に父が病死し、母や妹とケンカして家を飛び出した後発作が起き、救急入院も度々しました。ヘルパーや訪問看護も利用しましたが、担

当者の言動を悪く取り、長続きしませんでした。入院時に利用していた病院でもトラブルを起こして拒否され、市の担当者の段取りで、管内の病院で診てもらえるようになり、ようやく安定してきました。

以前から希望していた一人暮らしにチャレンジすることになり、市、病院、相談支援事業所、ヘルパー事業所、訪問看護の担当者とうみこさん母とで集まり、誰にどんな応援をしたらうのがいいかを話し合いました。

ゆみこさんは薬とお金の管理が苦手になっていたので、母がお金を小分けし、平日は誰かが朝訪問し、一日分の薬とお金を渡すと共に、家事と体調管理を応援する体制が先ず組まれました。

半年後より、週二回創作活動をする日中活動に送迎付きで参加を始めました。また料

理に興味を持ち、徒歩で行ける所の調理のプログラムにも参加し、怖いと避けていた包丁で切る作業にも、トライするようになりました。

みんなで考える会議は三か月に一度行い、血糖値が危険域になった時にも、身体を動かす、甘い物を絶つ工夫を話し合い、短期間で正常数値に戻すことができ、頑張れるという自信になりました。体調不良が起きると早く改善しないと落ち着かず、受診先に度々電話する問題も減っています。

週三、四回日中活動に参加できるようにしたので、支援者の定期訪問は、訪問看護と家事支援だけにしました。

現在の応援体制が作られてから三年余りが経過し、担当者の変更もありましたが、ゆみこさんは大きく揺れることなく、大きめの発作が起きた時だけ短期間入院し、無事

一人暮らしを続けています。

トラブルメーカーと決められがちな人も、その人なりの不安やこだわりが元になっていて、ダメな人と思われれることへのイラ立ちが行動化にもなるようです。できることが伸ばされ、応援団が組まれて、苦手なことにはサポート体制が作られ、話合い、知恵を練って行けば、確実に力は高まっていくことがわかりました。

誰にもいい変化が生まれるような街に、どんどんなっていくことを願っています。

(後藤雅子)



ほけっこの中にはね…



あつという間に吸い込まれていきました(笑)。

冒険遊び場ちよつとバン

活動紹介シリーズ⑩

夏休みも始まり、ご家族でキャンプに行かれる方も多いかもかもしれませんね。そんなキャンプにも役立つかもしれない!?「ブッシュクラフト入門」の第二弾をお届けします。

『ブッシュクラフト入門』②

「きほん」の二日目で村づくりをスタートさせた子ども達。お家に帰ってしつかり休んでの二日目の朝。スタッフは早くから遊び場に集合して今日の準備を進めていました。すると、「おはようー」と元気な声が…。そこには満面の笑顔の〇君が！集合時間の一時分以上も前に来てくれました。その後ろには申し訳なさそうに苦笑いを浮かべるご両親の姿がありました。「もう早くからすみません。昨日の続きから早く行くー早く行くーって間か

なくて…。」とのことでした(笑)。もちろん私達にとってはそんなに嬉しい事はありません♪早速昨日の村づくりの続きを始める〇君の姿に元気をもらい、スタッフみんなで準備を再開しました。

集合時間になり、他の参加者の子ども達も続々集まってきました。二日目のテーマは「食す」。村づくりをするためには腹ごしらえも大切！今日のお昼ご飯は、飯盒で炊くごはんと豚汁です。飯盒でお米を炊く時には、中ぶたを使うと計量ができること。(ちなみに中ぶたは二合、外ぶたは三合です。)でも実際に火にかけて炊く時には中ぶたを取らないといけない事。お水の量は指を使ったらわかるという事。そんな一つ一つ全てが新しい発見となり、何をしても楽しそうな子ども達です。火おこしは、昨日教えてもらった子ども達を中心になつてがんばっていました。

豚汁づくりでは、野菜を洗ったり、ピーラーや包丁を使って皮をむいたり切ったりしていきます。ちよつとくらい大きさがバラバラでも大丈夫♪みんなで作ることにそのものが、最高の調味料です。完成したご飯は、いっぱい働いたみんなのお腹に

村づくりもどんどん進み、ハンモックが登場した村もありました。ゆらゆらステキな午後のお昼寝タイムです。向こうの村では、真っ赤で可愛い森からの贈り物を見つけた子ども達がいきました。この時期ならではの「野イチゴ」です♪さつそくきれいに洗ってジャム作りが始まりました。自分達で摘んで集めたイチゴから、おいしいおやつが出来上がり、まさにテーマの「食す」にピッタリ！クラッカーにつけて最高のおやつタイムになりました。



今回は最低限のプログラム以外は基本的に何をするのも自由♪村づくりという軸を通して、それぞれの村で、自分のやりたい！遊びたい！を思い切り実現させていきます。二日目にしてさらにそれが実感できてきた子ども達。いよいよ明日からは一泊二日のクライマックスに突入です♪続きは又次回。お楽しみに☆ やまぐみ

遊び心は夢源也





くり



ブルーベリー



たすけあいの会 緑化計画 果樹成長しました！

ぼちぼちはうすの前で果樹を育て始めて、今年で3年目になります。植えたときには腰ぐらいの高さだった木が、今では私たちの目線と同じぐらいになってきています。桃栗3年柿8年ということわざもありますが、3年目に入り実がなる果樹が増えてきました。



春にはブルーベリーやラズベリー、梅雨明けからはかぼすが豊作でした。収穫したかぼすでソーダや、ゼリーも作りました♪

なし

梨の実は、毎年いくつか実っても虫にやられてしまったり大きくなりきらずに終わっていましたが、今年はいくつもの実が順調に大きく成長してきています。栗もたくさんできてきており、今年はい実りの秋になりそうな予感です。



すだち



大きく育っています！



☀️ 晴ればれアテリア ☀️ vol.33

福島ひまわりプロジェクト！満開のお知らせ

暑い毎日が続いていますね。たすけあいの会では、育てていたひまわりが満開になり、夏らしい景色が広がりました。

少し前までは、敷地の前を通るまちの方々が、ひまわりを見るために立ち止まる姿もよく見られました。近頃は、スズメが種を目当てに集まってきました。そろそろ収穫時でしょうか…。



「福島ひまわり里親プロジェクト」今年もたすけあいの会に夏の始まりを届けてくれています。

5月の初旬、プランターごとにひまわりの数や大きさにばらつきがあって、せっかく発芽した新芽を植え替えることがあります。

そんな“はぐれ新芽”というか生命力あふれる新芽を芝生の端に移植したところ、プランターで育つ“箱入り娘”の新芽たちとは違ったワイルドな“おてんば娘”に育ちました。

どのひまわりよりも高く大きな花を咲かせてくれたのです。たすけあいの会のみんなもプランターではなく大地に根を張り、力強く自分の足で立てるようになるんだよ!!というひまわりのメッセージなのかな？と深読みしてしまうひまわりリーダーなのでした。

みやまろ



こどもの安全を考えると
ということ

シリーズ
「かげひなた」
第二六回

松浦宏樹

児童相談所に勤務して
四カ月が経過しました。
日々の業務に少しずつ慣
れてきた部分もあります
が、まだまだ学び、研鑽を
積み重ねばと思う今日この
頃です。

去る、六月二十八日に立正
大学の鈴木浩之先生にお
越しいただき、サインズ・
オブ・セーフティ（以下、
SoS）に関する研修を受
講しました。SoSとは一
九九〇年代にオーストラ
リアのパーズで開発され
た児童虐待解決のため
の手法です。日本では二〇
〇〇年代から紹介されは

じめ、現在では日本各地の
児童相談所で虐待対応に
おける効果的な手法とし
て取り入れられてきてい
ます。

私が勤める県の児童相
談所においても数年前か
らその手法について学ぶ
機会が作られ、一時保護中
の児童や家族への支援手
法のひとつとして取り入
れられてきました。

詳細な内容については
『子ども虐待対応におけ
るサインズ・オブ・セーフ
ティ・アプローチ実践ガイ
ド』子ども安全（セーフ
ティ）を家族とつくる道
筋』（菱川愛ほか二〇一七
明石書店）をご覧いただ
ければと思いますが、手法に
ついて簡単に紹介する
と、「家族と支援者が協働
して、こどもの安全の「ゴ
ール」を作っていくものにな

ります。

虐待が家庭の中で発生
し、児童相談所がひとたび
こどもを一時保護すると
なると、虐待者（主には保
護者）と児童相談所の職員
はこどもを「取られた側」
と「取った側」という対立
関係になることが往々に
してあります。保護者は児
童相談所の職員に対して
「どうすればこどもを返
してくれるのか」と迫り、
児童相談所の職員は保護
者に対して「虐待を認め、
反省し、改善すること」を
求めることになるのです。

ここには専門職（児童相
談所職員）と当事者（保護
者）の協働関係は生まれに
くく、対話ではなく、指示
や指導に対し、従わせると
いう関係が生まれます。実
際、私が担当した一時保護
したこどもがいる世帯の

保護者とは「いつ子どもは
帰ってくるのか」というこ
とを幾度となく、繰り返し
話し合った経験がありま
す。

SoSではこども自身
が家庭での状況をどのよ
うに感じてきたのかを聴
き取り、まとめ、それを家
族と共有します。そのうえ
で、家族とこどもの「安全
の地図」を作り上げていき
ます。その際、「これまで」で
きていたこと、「心配なこ
と」「これから何が起きる
必要があるか」を確認して
いく作業があります。その
過程を通じて、こどもの安
全の「ゴール」を導きだして
いくのです。

対立ではなく、対話の中
でこどもの安心、安全を紡
いでいけるよう、これから
も取り組んでいきたいと
考えています。

6月30日(日)FACE to FUKUSHI 主催の

「FUKUSHI meets! インターシップフェア」に今年も出展しました!

会場はグランフロント大阪にある、コングレコンバージョンセンター。

出展法人は26団体。学生は223名参加されました。

たすけあいの会のブースには、15名の学生が訪ねてくれました。

当日を迎えるまでに、フェアに参加しないスタッフとも

「学生に何を伝えたいのか」「たすけあいの会が働いて

日々感じていること」「自分が大事にしていること」

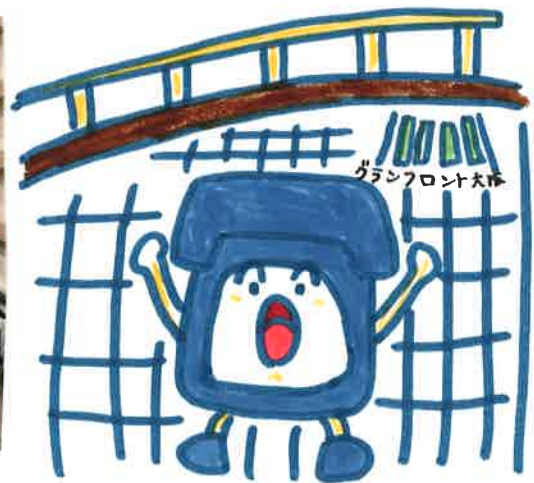
について話し合いを重ねました。

学生1人1人と、じっくり話をする時間を持つことが

できました。スタッフにとっても良い経験になりました!

FUKUSHI meets!

インターシップフェア行ってきました!



今年
は
街
の
地
図
風
に
な
る



話題の小説『成瀬は天下を取りに行く』と『成瀬は信じた道をいく』を読んだ。滋賀県大津市が舞台ということもある。関西在住の人にとっては身近に感じる内容が要所に盛り込まれている。物語は、さまざまなことにチャレンジを続ける女子高生成瀬あかりが、西武デパート大津店の閉店に際して、閉店を取り上げる地元のローカルテレビの生中継に毎日映り込み、西武への感謝を表明するという「アクション」から始まる。成瀬のそうしたちよつと変わった「アクション」が小説に登場する他のキャラクター（成瀬の友人など）の視点から描かれている。

この小説の読み方は人によってさまざまだろう。多くの読者は、成瀬の突拍子もない行動とそれを淡々と確実にこなす彼女の行動力に魅了されるのではないだろうか。ネタバレになるので詳細は書き控えるが、物語自体、成瀬の行動力に魅了される周囲の人間の模様を描くことで、成瀬の人物像を浮かび上がらせるとい手法が用いられている。

この小説を読み進めると、読み手によっては成瀬がいわゆる「発達障害」の傾向があるということに気が付くかもしれない。「空気を讀まない」成瀬の行動に周囲はひき、少し距離を置く。実際に小説の中では小学校五年生の時にク

実践の糧 第七十五回

むろたしんいち

ラスのみんなから無視されていたという記述がある。それでも当の成瀬は気にも止めず、まさに自分の信じた道をいくのである。

確かに成瀬は感情を表現することが苦手で、行動パターンの中に他者性が欠落しているという特性はあり、いわゆる「発達障害」というカテゴリーで見られる（もしくはそ

うした診断が下る）ことはあるだろう。しかし私がそれ以上と感じたことは、成瀬を通して見えてくる日本社会の特徴である。小説を読み進めるうちに、周囲の空気を読まずに行動する成瀬の姿が、アメリカ人のようにも見えてきた。アメリカ人は、感情表現が豊かという点においては成瀬とは全く異なるものの、周囲の

空気を読むことを是としない点において成瀬っぽいと思った。「アメリカ人」として一括りにすることはいささか乱暴ではあるものの、少なくとも私がアメリカから帰国した当初の自分に「成瀬っぽさ」があったのではないかと思う節が多々あり、成瀬の行動原理に共感すらした。

よく考えると、私がアメリ

かに留学した背景には、空気を讀まなければならぬ日本社会の雰囲気（あまりにも重く、そうした空気に敏感であり、過度に配慮してしまいうになる自分をなんとか解放してあげたいという気持ちがあったことを思い出した。アメリカに住むと、知り合いがいけないということ以上に、周囲の空気を讀むことに執着しない関係性にすっかり心地良くなった。成瀬がアメリカに行くとき、きっと普通に馴染むに違いない。小説を通して自分が日本社会の空気にまた押しつぶされそうになっていることに気がつくことができた。

この小説がよく売れている背景には、成瀬が空気を讀まずに行動することへの爽快感があり、多くの読者が日本社会の閉塞感を感じていることを反映しているのではないだろうか。もしそうだとしたら、自分もまた「アメリカ人」に戻ってもいいのかもしれない。

通算第4回 今年度第1回

「子育て応援

フードパントリー」

開催しました。2024年7月6日

冷蔵庫)の活動とは別の活動として、この「子育て応援フードパントリー」を昨年の夏からはじめました。

この「子育て応援フードパントリー」一回目(二〇二三年七月開催)は、寄付いただいた行政が準備していたコロナ療養用の食品(新型コロナウイルスが五類移行したため必要なくなった)を活用して行いました。

十二月の二回目、そして、今年の三月の三回目の二回は、中央共同募金会の助成金を活用させていただき、食品を購入し、かつ、寄付いただいた食品を活用して行いました。

加えて二回目以降は、農林水産省の「学校給食用等政府備蓄米交付事業」に食材提供団体として申請をさせていただき「食育のため」の米の給付を受けて、ごどもさん一人あたり二kg

を配布させていただくことができました。

今回、七月六月に通算四回目(今年度一回目)の「子育て応援フードパントリー」は、農林水産省の備蓄米2kgを二五人のごどもさんにお配りするとともに、約一〇〇世帯に企業様からの寄贈食品と皆さんからの寄付金によって購入した食品をお配りさせていただきました。

このイベントですが、福祉的なイベントとも、食品ロス解消というイベントとも、少し違った位置づけになっています。というのは、「福祉」のように、参加申し込みの対象を限定していません。子育て世帯であれば、経済的な要件など一切問いません。

一方で通算二回目以降は購入した食品も配布していただきますので、食品ロス解消とも言い切れません。

が、その両側面の意味もあわせもっています。「寝屋川コミュニティブリッジ」は、対象を生活保護受給家庭を原則として対象外にしています。かつ、主に、ひとり親家庭の困窮世帯を対象としています。ドイツやスペインではじまった「community bridge」の取り組みは実はこういった福祉的選別による「ラベリング」を否定しようとした取り組みでもあると言われています。

残念ながら現状の日本ではいろいろな意味で舵をきることができません。私たちは、いろいろなアプローチを行うことで「食品ロス解消」×「〇〇〇〇」のシナジー効果を創出したいと思っています。

※今年度、消費庁が開催しはじめた食品寄附等に関する官民協議会では、「コミュニティブリッジ」は別カテゴリーになっています

現在、私たちが行っている「食品ロス解消」×「〇〇〇〇」の取組みの一つに「子育て応援フードパントリー」があります。

実は「コミュニティ・フリッジ」も国(農林水産省)の位置づけでは、常設型の「フードパントリー」の一つとされています。※が、私たちはあえて「コミュニティフリッジ(公共



夏がやってきました。中山間地で少し標高の高いところにある宇陀市ですが、外に出た瞬間に汗が噴き出すほど、暑いが続いています。

浄瑠璃寺のうちわ

さて、アクティブセンタールうだでは、夏の取り組みのひとつに「うちわ作り」というものがあります。十年ほど前に、静岡県にある知り合いの事業所に見学に行ったことがきっかけで始まったものです。

そこでは、様々な紙漉き製品を作っておられ、中でも扇ぐとお茶の香りするうちわが印象的でした。

このエアコンや扇風機の時代に、あえてうちわを作り続けていることに興味をそそられ、紙の良さをいかに伝えていくかということとを議論したことを覚えています。

そうして私たちもうちわ作りを始めることにしたのですが、予想以上に注文が入るようになりまして。どんどん進化していく「デジタル」な時代ですが、人は「アナログ」を求めていたのでしょいか。

そんな中、京都府木津川市にある『浄瑠璃寺』さんから、お盆に配るうちわを作ってくれないか？と依頼が入りました。

住職の書かれた絵を大きく印刷し、裏には浄瑠璃寺の文字を入れるのですが、絵に沿うようなイメージの色等を細かく決め、全体像を共有するところが重要なことです。そこからは、分担作業が始まります。地域の方に使い終わった牛乳パックをいただき、紙漉きの作業工程に入っていく完成に至ります。

その完成したうちわはあえて宅配便で送らず、宇陀

から浄瑠璃寺に手渡しで納品しに行くことにしています。その際いつも住職と少し話をし、本堂を参拝し、境内を歩き、帰りにおススメのレストランを紹介していただき、ごはんを食べて帰るといって一大イベントに昇華しました。浄瑠璃寺は、四季によって様々な花を見ることができ、季節に合わせた顔を持つお寺であり、最後にお寺を楽しむまでがこのプロジェクトです。

このプロジェクトは二〇一九年から始まり今回で六年目になりました、とりあえず十年は続けようという住職とは話をしています。

このように、私たちの活動が宇陀市だけではなく、

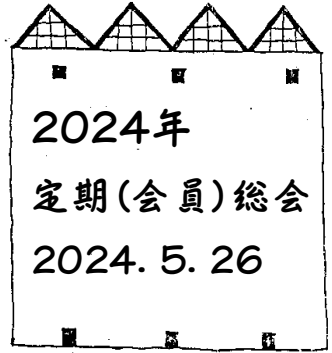


市外にも広がってきまして。地域を超えて違う地域とつながること、そこから色んな人の交流が生まれていくことを目指してききました。

ただその一端を担う「福祉」でのモノづくりには、難しさをたくさん感じていきます。きちんと「モノ」として評価されているのだから、本当に欲しいと思えるものを作れているのだから、そしてこの「創る」というプロセスをみんなでちゃんと楽しめてるかということなどです。

悩みはつきませんが、誰かの日常のちよつとした支えや演出に、私たちの創った何かが彩を添えることを想像しながらも、とりあえず出来上がったものをまず自分たちで一番楽しみ、自分たちが「これええやん！これやったらアリやな。」と思えるものを作ることにこだわっています。

さて、今年のうちわ作りもあと少し、そしてそのうちわの風を一番最初に楽しませていただくのは、もちろん私たちなのです。



二〇一八年の台風二十一号の被災で、特にたくさんの方、それまで当会の活動を知らなかった方からもたくさんの寄付をいただきました。

災害時の寄付は一時的に注目をしていただけのこと、かかわってくださる方が増えますがその後が課題と言われている。タイミングの悪いことに、その後、コロナ禍がありました。

当会の活動も今年で四十六年目になりました。法人格取得後、事業活動の開始からも二十年を過ぎ、二十五年になり

ました。福祉事業は、時代を経て、何度も何度も制度が変わりつつ、介護保険がはじまった二〇〇〇年に言われていたように福祉は「サービス」になりました。

ボランティアをとりまく様相も変わりました。最近の若者の中では、「ボランティア」は「オワコン」(もう過ぎ去ったもの)、一時期ブームのようになつていたシルバー世代は、働かなくてはいけなくなり、どこでも、昔とは違うと言われます。時代や生活スタイルが変わる中での新しい形の市民参加が声高に、それもいろいろな形でいわれるようになりました。

たすけあいの会も、時代にあわせて、時の流れにあわせて、できるだけ、緩やかに、大事なものは残しつつ、その形を

変えていこうと思つていきます。

今年はこの会員総会もたくさんの会費や寄付をいただいている方へ事業活動の報告を届けられるように工夫をしました。今年の報告はこんな感じでした。

1. オープニングごあいさつ
 2. 活動報告
- ・「人そだちあう」

活動について

インプロ

インターンシップフェア

社会福祉士実習の受入

団体内研修

ひきこもりつなぎ相談

コミュニティフリッジ／フードバンク事業について

3. 経営・財務・運営に関する報告

4. 事業報告

報告も、進行が大村、

報告は中務、後藤、富田が分担して行いました

会費や寄付をいただいている方に私たちの活動状況をどう届けていくのか、試行錯誤が続きます。総会の様子は、youtubeにアップしています。ご覧いただける方は年次報告書を手元においていただきながら、ご覧ください。

<https://youtube.com/N8VNTfaREM>



事務局より お知らせ

高齢者施設でのボランティア募集

高齢者施設での月1回のボランティア活動です。古着の裁断や簡単な清掃などです。毎月第3火曜日午前。活動先は寝屋川市池田の特別養護老人ホームです。

古本募金募集しています 「ハピぼん」

ご家庭で読み終えた書籍や使い終えたゲームソフトをお送りいただき、その買取相当額を寄付する仕組みです。以下のサイトをご覧ください。支援先に「寝屋川市民たすけあいの会」をご指定ください。 <https://hapibon.com/>

募集しています

つなぐ発送ボランティアをしてくださいますか？

たすけあいの会で2か月に1回の「つなぐ」発送のボランティア。みんなでわいわいと発送作業をしています。

「お知らせ」

寝屋川難病連絡会が2024年5月末をもって活動を終了いたしました。1996年から長きに渡っての活動でした。ここに報告させていただきます。

Thank You!! Thank You!! Thank You!! Thank You!! Thank You!!

おうちで眠っていませんか？

・裁ちばさみ ・楽器[大きなものは除く] ・掃除機 ・ミキサー ・シーツ(きれいなもの) ・製菓用品
・折り紙などのきれいな紙や布 ・洗濯機 ・冷蔵庫 ・電子レンジ、電磁調理器など暮らしに必要なもの(使えるもの) ・おふとん、毛布(新品かほぼ新品)、バスタオル(新品)。※パソコン(動くもの)、ミシン(動くもの)、カメラ(動くもの)、ゲームとゲームソフト(古くてOK)
★学校でつかっていた問題集(解答付のみ!) 少しくらいなら書き込みがあってもOK
「あるよ～寄付してもいいよ～」という方は、たすけあいの会(072-826-4655)までお電話下さるか、直接お持ちください。お待ちしております♪

編集後記

最近、好きな服を着て外に出掛けるといふことが楽しいなと感じるようになりました。昔は、服に対して全く関心がなくほとんど親が買って来ていたものを着ていました▼ある時、今まで着たことがないけれど好きだと思いう服を着てみようと思いい、ここで売っているのか調べ、購入しました。お気に入り服の服なのでプライベートルい着て楽しんでいきます▼好きな服を着て出かける「好き」を全面的に表現できていくような気がして自信が持てます▼それから、街ゆく人達がどのような着こなし方をしているのかよく見ています。観察、勉強し、好きな服をちゃんと着こなせるように成長していきたいです

(ミン)

協力感謝

六月一日～七月三十一日(敬称略)

△個人△云費△

薬師寺 美和子 河合 祥子

河合 路子 仲嶋 育子

大霜 和美 岡田 進一

北村 良子 松村 豊

杉岡 恵雄 森下 隆子

石橋 功一 加藤 陽介

鶴野 隆浩 西木 達夫

佐藤 達 喜多 節子

近藤 鈴江 中沢 健二

藪野 隼一 金子 幸栄

吉村 匡史 匿名一名

△団体△云費△

株式会社 マエダエステート

株式会社 あみ

△史前付△

栗山 繁一 森下 隆子

石橋 功一 加藤 陽介

西木 達夫 三上 陽子

羽田間 洋一 近藤 鈴江

株式会社 あみ 匿名一名

△マンスリーサポート△

一企業 個人一名

Thank You!! Thank You!! Thank You!! Thank You!! Thank You!!

毎月11日にイオンで行われている「イエローレシートキャンペーン」

当会も長年四條畷イオンに参加させていただいています。11日に買い物して発行される「黄色いレシート」をたすけあいの会のボックスに入れていただくと総額の1%の金額がイオンギフトカードとして寄付されます。四條畷イオンに買い物に行かれる方は11日の日にもらった黄色いレシートをぜひ、寝屋川市民たすけあいの会のボックスに入れていただけるようよろしくお願いします。

Thank You!! Thank You!! Thank You!! Thank You!! Thank You!!

寝屋川市民たすけあいの会は「人間が人間らしく暮らすことのできる福祉のまちづくりを目ざしている市民団体です。あなたもたすけあいの会の活動に参加してください。

★ 個人会員・・・「たすけあいの会」の主旨に賛同して下さる方。〈年会費〉3000円

★ 団体会員・・・「たすけあいの会」の主旨に賛同して下さる団体。〈年会費〉4000円

※会費・寄付金には「つなぐ」購読料を含みます。

◎会費や寄付をいただける方は、郵便振替00970-0-24220をお願いします。

(ゆうちょ銀行 099店 当座 口座番号0024220)

※インターネット上からクレジットカード、銀行振り込みも可能になりました。

寝屋川市民たすけあいの会のホームページの右上「寄付募集」をクリックして

「寄付」をする から可能です。会費の場合は、コメント欄に「会費」とお書きください。

【編集】寝屋川市民たすけあいの会

〒 572-0061 大阪府寝屋川市長栄寺町5-1

電話：072-826-4655

相談支援センター：072-838-4040

FAX：072-838-8032

E-mail:nc4@nifty.com <https://neyagawatasukeai.org>